

見えにくい「特権」を自覚する

～差別問題を“わがこと”とするために～

人権教育や差別について学ぶとき、「差別はいけません。優しい気持ちを持ちましょう」という指導は必要なことですが、それだけで十分でしょうか。差別をひとごとではなく“わがこと”としてとらえるためには、自分にある「特権」について考えてみることも必要です。今回は、自分では気づきにくい「特権」について考えてみましょう。



特権ってなんですか？

マジョリティ？



特権？



「特権」とは、あるマジョリティ側の社会集団に属することで、労なくして得た優位性や権力のことだよ。マジョリティ側にいることによって自動的に優遇されているので、マイノリティ側にいる人たちの存在や苦勞に気づきにくいことが多いです。自分に「特権」があることを知らないのだから、差別に加担してしまうこともあります。



ところで、そのマジョリティ側、マイノリティ側って、なんですか？



マジョリティ側とは、多数派という意味だけでなく、少数でも「より権力がある側」という意味です。マイノリティ側は少数派というだけでなく、マジョリティ側と同等に扱われないことが多い集団です。“私は特権なんて特にもっていない”と思う方も多いかもしれませんが、例として次の「特権に気づくチェックシート」をご覧ください。日本人と外国人等、男性と女性、健常者と障がいのある人など、それぞれの項目で自分はどちら側かチェックしてみてください。左側に多くチェックが付けば、社会の中でより「特権」を有している側にいるということになります。

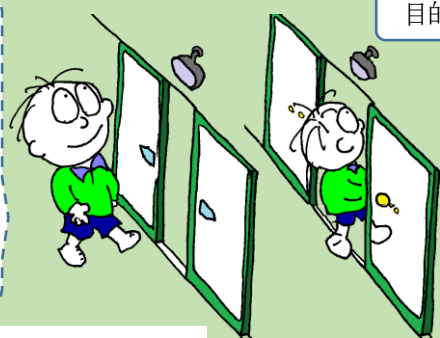
特権に気づくチェックシート 「あなたはマジョリティ性、マイノリティ性 どちらが多いですか？」

項目	マジョリティ性	マイノリティ性
人種・民族	☐ 日本人	☐ 外国人等
出生時に割り当てられた性別	☐ 男性	☐ 女性
身体・精神	☐ 健常者	☐ 障がいのある人
性的指向	☐ 異性愛者	☐ 同性愛者等
性・ジェンダー自認	☐ 身体と性自認が一致	☐ トランスジェンダー等
所得	☐ 高所得	☐ 低所得



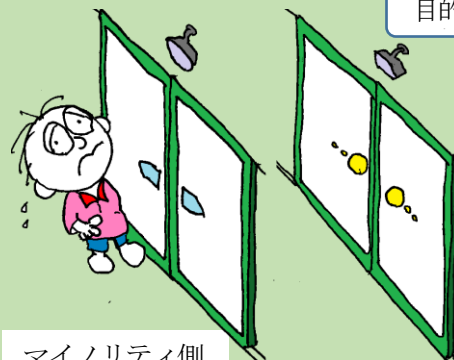
自動ドアから特権に気づこう

自動ドアが、スーッと開いてくれるので、自動ドアの存在に気づかない。



マジョリティ側

目的地



マイノリティ側

センサーが感知しないので、自動ドアが開かない。開かないのでドアの存在に気づく。



特権を可視化するのに「自動ドア」が有効です。マジョリティ側は目的地に向かおうとすると、センサーが感知して次々とドアが開いてくれるので前進できます。これが当たり前だと思っています。一方、マイノリティ側はセンサーが感知せずドアが開かないことを経験するため、ドアの存在に気づきます。「自動ドア」はマジョリティ側を優遇している構造にありますが、優遇されているという感覚はありません。このようにセンサーの感知が異なる「自動ドア」が社会にはたくさんあります。



マイノリティ側に対してドアが開かないということは、センサーが正しく感知していないということですね。ドアの前に居るのに…。人によって扱いが違うことは、公正でないですね。



そうですね。公正でない「自動ドア」の例としては、こういうものがあるね。ある会場の場内放送が音声だけだったら、聴覚障がいの人には内容が伝わりません。また、お店のメニューが日本語だけだったら、日本語が読めない外国の方は、簡単には注文ができません。特定の属性の人を外しているという意識はなくても、排除される人がいるならば、差別につながります。気づきのセンサーを特権という観点で捉えなおすことが必要です。



センサーの感知を改善するためには、どうしたらよいのですか？



マジョリティ側の中には、「自分は普通で特別じゃない。変わる必要はない。」というどこか他人事のような態度をとる人がいます。これではセンサーは改善されません。そこで、①マジョリティ側は、自分にある特権を自覚し、社会を変えやすい立場にいることに気づくこと、②マジョリティ側がマイノリティ側と“アライ”*になることで仲間を増やし、マイノリティ側が声をあげやすい社会を創ること、の2点が必要です。

*アライ：アライアンス（「同盟・仲間」）からきた言葉。最近ではLGBT等を支援する人をアライと言います。



お話を聞いて思い出しました。私の祖父が車椅子の生活になった時、暮らしの中にある段差をつくづく不便だと感じました。どこへ出かけるのにもスロープやエレベーターがあるかを確認しなければならなかったのです。今まで私には、「スロープやエレベーターがあるかどうか調べなくても済む特権」があったことに気がつきました。このことから、もっと他にも「〇〇の特権」があると思いました。そうした考えを習慣化することによって、差別の問題を“わがこと”としてとらえることにつながると思いました。今日はありがとうございました。

参考：山陰中央新報 2022年3月29日 「エデュケアのとびら」 上智大学教授 出口真紀子

